

～山の美しさにひかれて～



田淵行男<大キレットに沈む月 檜ヶ岳>1969年10月撮影

# 田淵行男 私の山岳写真

田淵行男記念館開館20周年記念収蔵コレクション展

## 2010.11.11(木)～2011.3.6(日)

本展では田淵行男作品の芸術性に着目し展観します。自著「私の山岳写真」(1964年、東京中日新聞出版局)のなかで田淵は、マチスの「モチーフは一度か、さもなくば千度みるべきだ」、ロダンの「独創はいらぬ、生命がいるのだ」などの言葉を引用しながら、山の本質を直視し、率直で、端的に表現することの重要性を説いています。「単なる描写に終わってはならない」と心にいいきかせながら、シャッターを押す自分の手に念を入れ押し続けるなかで、それはやがて理論化され独自の表現技法として確立されてゆきました。田淵独特の構図や濃淡の配分、単純化、量感の表現などを代表作約30点から読み解きます。

同  
時  
開  
催

### 小笹純弥写真展 「花と根」～水のコスモロジー～



小笹純弥 <フロストフラワー> 2008年1月12日

## 2010.11.11(木)～2011.1.30(日)

第3回田淵行男賞写真作品公募のアサヒカメラ賞受賞作、小笹純弥(1984～)「花と根 水のコスモロジー」を展示公開します。水とまっすぐに向き合い、水と水の造形美を優れた感覚でカメラに取り込み表現したモノクローム作品20点です。

### 穂刈三寿雄写真展 ～大正期から昭和初期の北アルプス～



穂刈三寿雄 <雪沢上部を行く登山者と穂刈岳>

## 2011.2.2(水)～2011.4.24(日)

大正期に北アルプスの盟邦、檜ヶ岳に山小屋を建設した穂刈三寿雄(1891～1966)は山岳写真家としてもパイオニア的存在でした。大正から昭和初期にかけて積雪期の北アルプスなどを組立暗箱で撮影したモノクローム作品約20点を紹介します。

#### ギャラリートーク

講師

穂刈 康治  
(檜ヶ岳山荘オーナー)

日時

2011年3月5日(土)  
午前10時～午後2時

### イベント

#### わさび田キャンドルナイト

2010.12.22(水)

12月22日の冬至の夜に、館内の照明をライトダウンし、記念館周辺のワサビ田にキャンドルを点灯します。  
(開館時間を午後8時まで延長します。)

協力/100万人のキャンドルナイトIn安曇野実行委員会

#### ワークショップ「クリスマスのペーパーオーナメント作り」\*

2010.12.22(水)

雪の結晶などをモチーフとした「クリスマスのペーパーオーナメント作り」ワークショップ。是非親子連れ、ご家族でご来館ください。  
※カッターを使ったやや細かい作業です。対象年齢:小学校4年生以上

時間/第1回:午後5時～、第2回:午後6時～、第3回:午後7時～

講師/「アトリエむう」いとうよしこ

定員/各回12人 (要入館料)※事前のお申し込みは11月23日から承ります。(電話にてご連絡ください。TEL.0263-72-9964)

**田淵行男記念館**  
YUKIO TABUCHI MEMORIAL MUSEUM

〒399-8201 長野県安曇野市豊科南穂高5078-2

TEL: 0263(72)9964 FAX: 0263(88)2010

URL: <http://azumino-artline.net/tabuchi/>

## 小笹純弥

1984年、福岡県福岡市生まれ。

2004～2005年、北海道教育大釧路校在学中にロシアカムチャツカ国立大学に留学。

2006年、釧路芸術館での写真展「大地への想い」で水越武氏と出会い、以後アシスタントとして撮影に同行するようになる。その後、水と氷を中心とした撮影を始める。

個展2010年4-5月、「水の花、水の根」(弟子屈)。

2010年7月「第3回 田淵行男賞写真作品公募」アサヒカメラ賞受賞。



## 穂苅三寿雄

1891(明治24)年、長野県松本市に生まれる。少年時代から山に親しみ、美ヶ原や鉢伏山などを歩く。1907(明治40)年秋、初めて上高地・槍ヶ岳一帯の登山道の整備を機に、山小屋建設を決意し、1917(大正6)年にアルプス旅館(2年後に槍ヶ岳小屋に改称)を開設。白馬頂上小屋につづき、信州側の営業小屋第2号となった。次いで1921(大正10)年に大槍小屋(現・ヒュッテ大槍)、26年に槍ヶ岳肩ノ小屋(現・槍ヶ岳山荘)を建設。独学で写真を学び、1921(大正10)年頃、松本市内に「ほかり写真館」を開業。山岳写真はがき、登山記念の土産用写真を北アルプス各地の山小屋に卸す。大正後期から、自ら写真機を持って山岳写真を撮りはじめ、地の利を生かした秀作を数多く撮影、対象末期の積雪期の山岳写真など先駆的な業績を残した。また槍ヶ岳の開祖・播隆上人の研究をつづけ、1963(昭和38)年『槍ヶ岳開祖播隆』(私家版)を著す。

1966(昭和41)年3月14日、長野県松本市で死去、享年75歳。その後、播隆研究は長男の貞雄に引き継がれ、1982(昭和57)年、親子共著による『槍ヶ岳開祖播隆』(大修館書店)が、97年には集大成の増補改訂版が刊行された。



水越武 撮影

## 田淵行男

1905(明治38)年6月4日、鳥取県日野郡に生まれる。1928(昭和3)年、東京高等師範学校博物科(現・筑波大学)を卒業し、同年に富山県内の中学校に教諭として赴任。1930(昭和5)年、教職につき、この頃から生徒を引率して北アルプスなどの登山に頻繁にでかけ、山岳写真を撮りはじめる。1943(昭和18)年、教職を辞し山岳映画社教育映画部に入社。1945(昭和20)年、長野県南安曇郡西穂高村(現・安曇野市穂高牧)に疎開し、同年から高山蝶の生態研究・撮影に取り組む。1951(昭和26)年、最初の写真集『田淵行男山岳写真傑作集』(朝日新聞社)を刊行し、山岳写真家としての第1歩を印す。1959(昭和34)年、生態写真集『高山蝶』(朋文堂)を刊行、蝶類の生態研究書として内外から高く評価され、日本写真批評家協会特別賞を受賞した。1961(昭和36)年、南安曇郡豊科町(現・安曇野市豊科)に居を移し、生涯同地に暮らす。

博物学や生物学の視点を持ち、人間と自然の共存の方法や、自然のあるべき姿を写真を通して問い続けたナチュラルリスト・田淵の仕事は、後のネイチャー・フォトを志す多くの写真家たちの指標となる。日本写真協会作家賞(1967年)、自然保護思想普及功労賞(76年)など受賞多数。1979(昭和54)年の長野県知事表彰(芸術部門)、84年の豊科町名誉町民(現・安曇野市名誉市民)第1号のほか、87年には長年の蝶研究の功績により日本鱗翅学会より表彰を受ける。1989(平成2)年5月30日逝去。享年83歳。1990(平成2)年7月7日、田淵行男記念館が開館。フィルム約72,000点や蝶の細密画約200点のほか、カメラや愛用の品々などを収蔵・公開している。

※上記の作家紹介は「作家解説」(関次和子・編)『山を愛する写真家たち 日本山岳写真の系譜』[1990年、(財)東京都歴史文化財団、東京都写真美術館企画・監修]、『田淵行男記念館開館20周年記念 第3回田淵行男賞写真作品公募』[2010年、田淵行男記念館開館20周年記念事業実行委員会編集・発行]をもとに作成しました。

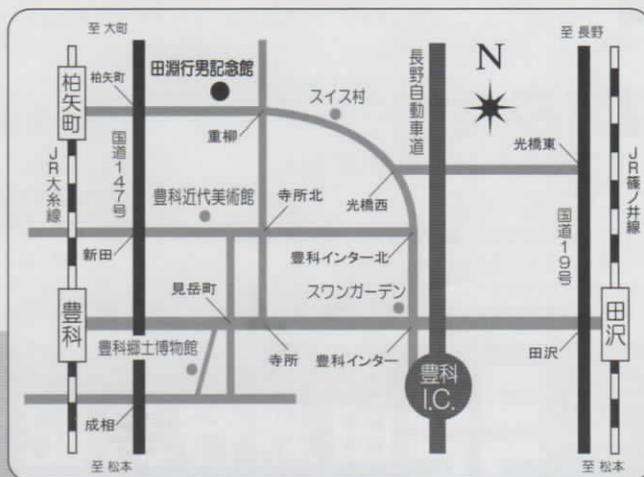
【開館時間】 午前9時～午後5時  
(わさび田キヤンドルナイト 12月22日(水)は午後8時まで開館)

【入館料】 大人300円、小中学生200円 1月は安曇野市民の方は入館料無料です。  
※1月5日(水)から1月30日(日)の間、安曇野市民であれば誰でも何度でも無料でご入館いただけます。  
(免許証など住所が確認できるものをご提示ください)  
※市内に在住する満75歳以上の方、障害者手帳携帯者とその介護者1名はいつでも無料です。

【休館日】 月曜日(1月10日は開館)、祝日の翌日、12月28日～1月4日  
※11月9日、10日は展示替え作業の為、臨時休館となります。

【駐車場】 専用無料駐車場あり

【交通手段】 長野自動車道豊科IC.から車で北へ約5分  
JR大糸線柏矢町駅から東へ徒歩約20分、タクシーで約5分  
JR大糸線穂高駅から安曇野周遊バスで約20分「安曇野の里」下車  
(運賃、運行日等については安曇野市観光協会 TEL.0263-82-3133へ)



**田淵行男記念館**  
〒399-8201 長野県安曇野市豊科南穂高5078-2  
TEL : 0263(72)9964 FAX : 0263(88)2010  
URL : <http://azumino-artline.net/tabuchi/>